

伊野川から忠別川までの地名

チカブニ→近文→近文町

今回は掲載地図のチカブニから、現在の旭川市近文町に至る、「近文」地名の変遷について概観する。

これまで見てきたように、安政四年（一八五七年）に松浦武四郎が、チカブ二は山名と明記し、明治十八年に司法大輔だいすけで初代北海道庁長官となる岩村通俊とくじゅんが、チュツカブミと聞いた音から「近文」と漢字表記をし、明治二十四年には永田方正が、『北海道蝦夷語えぞご地名解』で次のように地名解を書いた。

図によつたものである。

明治六年に開拓使測量長ワッソンが
三角測量で、上川を測量調査する。その
時に同行した開拓使少主典平林通恪ひらばやしつうかく

の『北海紀行』では、「チカブニ 六戸、
上チカブニ 七戸」と、戸数と人名と年
齢までが書かれている。チカブニのコ
タンの初めての記録である。

ワツソンの『石狩川踏査図』では、石狩川と忠別川の間に、「Tukabuni・チカブニ」と記されている。チカブニが、石狩川の右岸に書かれていないのが、問題が残る地図である。

明治十七年に、内務省地理局地理課の高橋不二雄と、札幌県地理課主任の
ふくし なゆき ときお

ミタル処ノ山面ニ大岩アリ。鷹常ニ
來テ此ノ岩上ニ止マル。故ニ名ク。
掲載地図のチカブニの位置は、明治
三十一年製版の『北海道仮製五万分一

に登り、北
北海道の中央
高地を実測
する。その
ホトウイエウシ
ル 「伝承のコタン」
嵐山 展望台 場

五号で、鷹栖村が設置された。鷹栖村では、明治三十九年から近文・近文原野・近文又面也等の「近文」の寸々を数字を

『改正北海道全図』は、当時としては、最も詳細な北海道地図として、明治十九年に設置された北海道の規範図とされた。

地図①は『改正北海道全図』の旭川付近で、一五〇%拡大したものの。石狩川右岸に「チカラニ」と「チカラニ山」が記載されている。

さて、明治二十年に道庁殖民課の福原鉄之輔てつのはすけが責任者となつて、石狩国上川郡の原野撰定が実施される。福原鉄之輔は、『改正北海道全図』の「チカラフニ」から、石狩川右

岸の地に「チカブニ原野」を撰定する。この「チカブニ原野」は、後に

図②の『石狩国上川郡近文原野区画図』のように、「近文原野」と漢字表記され、その区画は現在の鷹栖町と石狩川右岸の旭川市域のオサラツペ川から突哨山

までの広大な範囲であつた。近文原野は、明治二十四年に測設し、区画地の貸付けも同年から行われた。

五号で、鷹栖村が設置された。鷹栖村では、明治三十九年から、近文・近文原野・丘文・画也等の「丘文の寸々」を数字を

A detailed black and white map of a river system, likely the Amakiriwa River (アマクリワ川). The map shows a complex network of waterways branching through a landscape. Several labels are written in Japanese characters (kanji and hiragana) along the banks of the rivers. On the left side, the label 'チカラエ' (Chikarae) is written vertically. In the center, there is a large, irregularly shaped landmass with the label '水古ミタ' (Mizuki Mitai) written vertically on its upper portion. To the right of this central landmass, the label 'バカンエ' (Bakanai) is written horizontally. Further down the river on the right bank, the label 'ツツメ' (Tsumame) is visible. At the bottom right, the label 'ツツ川' (Tsumami River) is written horizontally. The map uses a light gray background for land and white for water, with black outlines for the river channels and labels.

②『近文原野区画図』タイトル

石狩國早川郡近文原野區勸園

から、オサラツペ川までが、旭川町に編入され、旭川町近文となつた。

更に、昭和四十六年には、東鷹栖町が旭川市に編入し、行政字名だつた、近文・近文原野・近文区画地等の「近文」の付く地名が、鷹栖町を含めて消滅した。

わずかに、旭川市近文、旭川市近文町の地名が現在も使用されている。

明治三十年代に創立開校した、旭川市立近文第一小学校と近文第二小学校

が、東鷹栖にあるのは、「近文」地名変遷の象徴である。